

策定年月	令和5年2月
見直し年月	令和 年 月

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：石狩市

（作成主体：石狩市農業再生協議会）

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## ① 麦・大豆生産の現状と課題

産地の課題としては、小麦や野菜、大豆との輪作体系が確立しておらず、又、これまで野菜生産に力を入れてきたが、生産者の高齢化と労働力不足から担い手による生産規模拡大と省力化が更に急がれる。圃場整備の遅れから排水性や基盤整備も遅れている。

## ② 麦・大豆生産の課題解決に向けた取組方針

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、飼料用米等で116haの作付拡大を推進する。小麦については、生産コストの低減や品質・収量の向上と合わせて面積拡大にあたり農業用ドローン防除によるスマート農業技術の普及拡大を図り、省力化を進める。又、地域では生産者の高齢化が進むと共に、担い手への作付面積の集約が進んでおり、生産性の向上に資する大型機械とこれに見合った高性能作業機械の導入、さらには先端技術の導入による省力化を進めることが、面積拡大推進の為の急務となっている。

現在、石狩市農業再生協議会では、「水田収益力強化ビジョン」による水田フル活用の推進として、主食用米の需要低下が進む中、水田農業を発展させていく為、需要に応じた生産を図りつつ、収益性の高い農業への転換、需要ニーズに応じた品種の選定、労働力確保対策、実需に応じた品質維持等を取組計画としている。本計画では、その計画に付随して必要となる輪作体系と効率化を重要視して、地域の基幹作物である小麦の生産性向上を図り、持続性・継続性に優れた作業体系の確立を図る。地域水田農業の更なる活性化のため、人・農地プランとの連携を図り、集積された農地が効果的に活性化されるよう面積拡大を推進する。

以上を踏まえ、生産者の意識醸成と輪作体系を確立し長期的な作付計画に基づいた生産体制を築くことを目的に、生産者を対象に事業説明会を開催し、団地化、省力化を推し進める。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針

○連携体制

産地（生産者・ホクレン）

ホクレン

販売委託

取扱数量

石狩地区

秋小麦生産量

R3現状 1,989t 目標 3,679t

春小麦生産量

R3現状 766t 目標 1,000t

実需者

（販売先）

非公表

取扱数量

非公表

製粉

R3秋小麦取扱量:985t 目標1,000t

非公表

製粉

R3春小麦取扱量:766t 目標1,000t

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

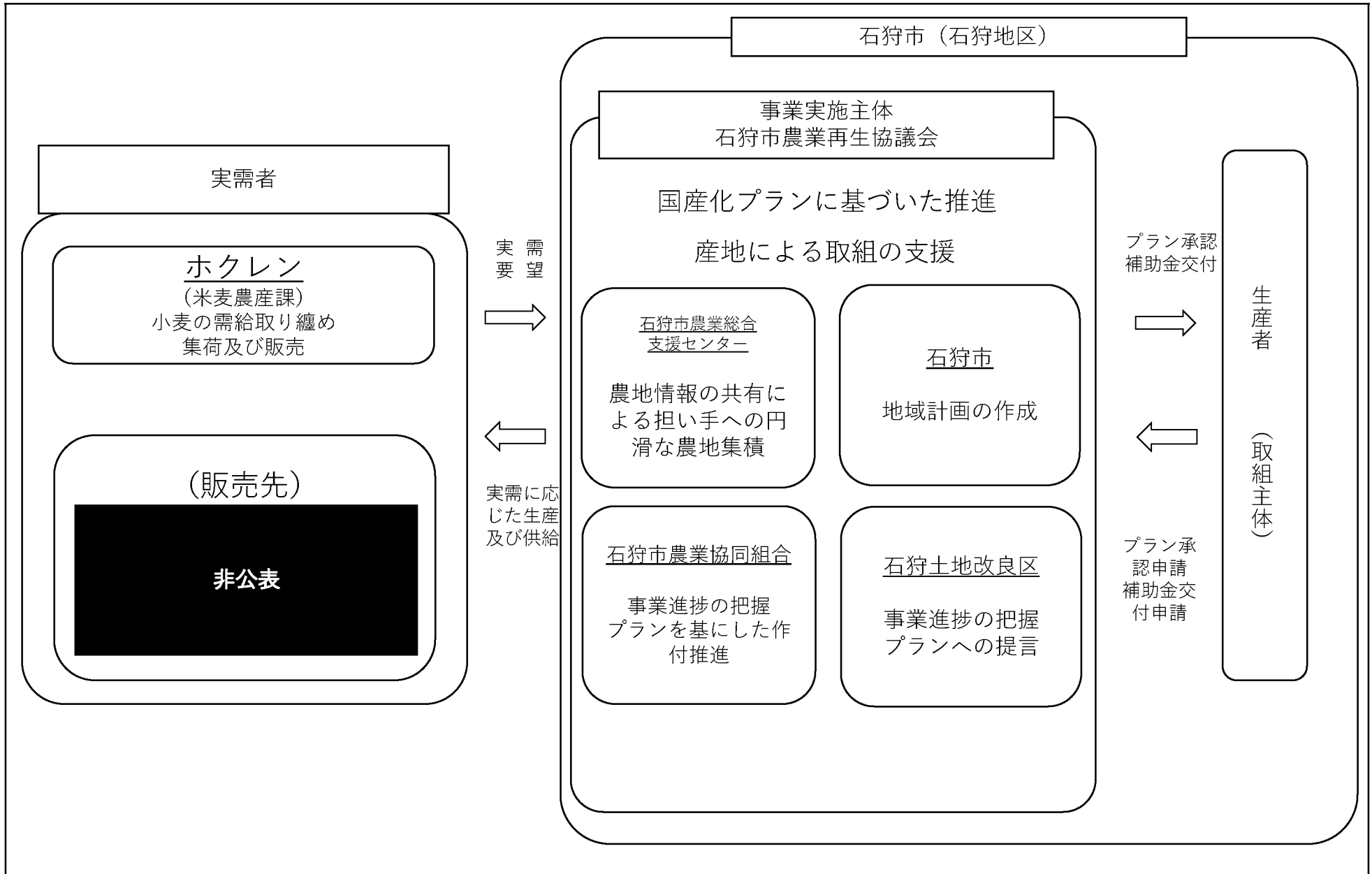
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。